

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

公民的分野専門委員長 岐阜市立長森中学校 前島久恵

1 はじめに

昨年度まで、【価値に関する認識を形成する授業】において、次の内容を重点として実践研究を進めた。成果と課題は以下の通りである。

「事実の分析的検討」について

- 生徒の発言を「事実の分析的検討」を踏まえながら聞くと、生徒は無意識かもしれないが、「類推」、「未来予測」、「比較」、「統合」の考え方を活用していた。それを、教師が意図的に取り上げたり、価値付けたりすることで、合理的な意思決定につながっていき、話し合いの質が高まった。
- 授業終末に「互いの意見を尊重し、どの立場からも納得できるようにするには、どのような提案を考えていくとよいか？」という教師の手立てが「事実の分析的検討」の統合につながり、最終的な結論を導き出す手立てとなった。

「合意形成の授業」について

- 留保条件の設定により、個人内での合理的な意志決定を図ることができた。
- 一方、集団での合意形成までには至らなかった。集団での合意形成の授業が中学校段階で可能なか実践を行い、検証をする必要がある。

2 研究内容

【価値に関する認識を形成する授業】における重点

- ★授業モデルの定着・発展・普及
 - ・価値に関する認識の授業を教科書から考える
 - ・評価の充実
(ねらいの明確化とルーブリック評価等の活用)
- ★認識を深める場の手立ての在り方
 - ・「留保条件の設定」による議論の成立(価値に関する話し合い)
 - ・合理的な意志決定をさせるための「事実の分析的検討」

(1) 授業モデルの提案

「価値を形成する」には、①個人内の価値形成、②集団(班・学級)での合意形成の2ステップが必要となる。

①『個人内の価値形成』

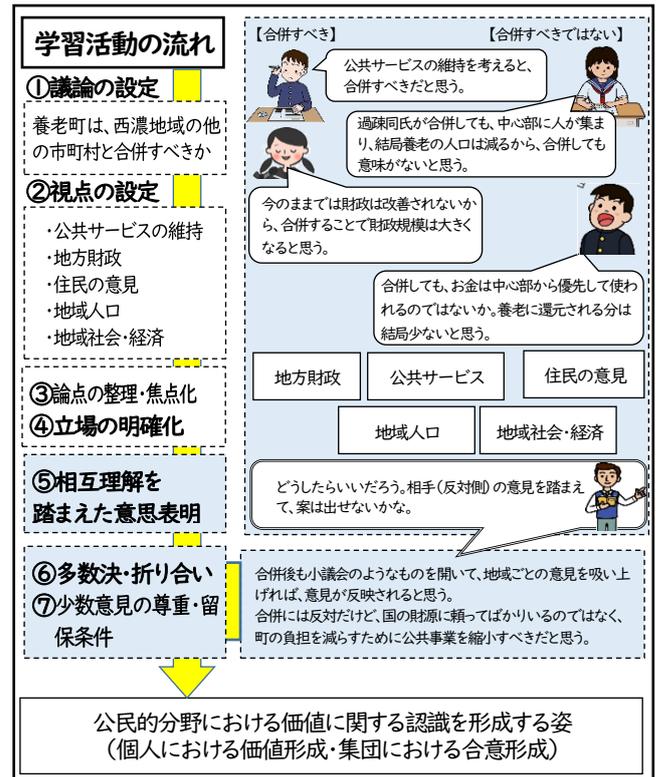
- 1 議論の設定…何が問題となっているのか。
- 2 視点の設定…どんな視点があるのか。
- 3 論点の整理・焦点化…誰のため、何のためにどうすればよいのか。何が特に大切なのか。(軽重)

4 立場の明確化…どの立場で考えるべきなのか。

→これらを理解していく中で、自分がそう考えるに至った判断理由を明確にし、自分の考えの変容にも気づかせるようにする。

5 相互理解を踏まえた意思表示

【昨年度の実践を簡素化したもの】



②『集団(班・学級)での合意形成』

6 多数決・折り合い…より多くの人々が納得するためにはどんな方法があるのか

7 少数意見の尊重・留保条件…どんな条件があれば、少数意見の人たちも納得できるのか

※集団での合意形成には多数決が採られるからこそ、その多数決を意味のあるものにするために、「折り合いをつけること」と「留保条件を考える」ことが欠かせない。

(2) 価値認識を深めるための手立て

集団での合意形成を図る段階での、「折り合い」「留保条件」について考える場を設定することで、個人の価値形成から、自分以外の価値に目が行き、より多くの人々が納得するための解決策を考えることができる。どのような手立てをうつつと生徒の思考に広がりや深まりがうまれるのか、教材開発の面も含めて、今年度研究を進めたい。